

第 5 9 回
東北地方交通審議会
船員部会議事要録

平成 25 年 9 月 20 日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会

第59回船員部会

日 時 平成25年9月20日(金) 15:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、村上部会長代理、清水委員、箭内委員
労働者委員 : 高橋(雅)委員(欠席)、正路委員(欠席)、野田委員
使用者委員 : 鶴本委員(欠席)、佐藤委員(欠席)、湯村委員

運輸局 : 本田海事振興部長、阿部海事振興部次長
遠藤海上安全環境部船員労働環境・海技資格課長
鈴木海事振興部船員労政課長、淀川労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について
(2) その他

配付資料

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(7月分)
- 資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料4 新規求人・求職数(全国)
- 資料5 有効求人・求職数(全国)
- 資料6 有効求人倍率(東北管内)
- 資料7 有効求人倍率推移(全国)
- 資料8 最低賃金専門部会に関する資料
- 資料9 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【海事振興部次長】

〔第 59 回船員部会の成立について報告〕

議事に入る前に、労働者委員に交替がありましたので、事務局から紹介いたします。

〔異動者紹介（野田委員あいさつ）〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

（１）管内の雇用等の状況について

【部会長】

それでは早速、議事に入りたいと思います。

お手元にある議事次第の議題（１）管内の雇用等の状況について、事務局から報告願います。

〔船員労政課長より資料 1～7 に基づき報告〕

【部会長】

どうもありがとうございます。質問等はございますでしょうか、ご意見等も含めて。

【清水委員】

1つ。管内の商船のほうの成立で、機関員という形で2名採用になっていますけれども、今どきエンジンで、エンジニア、機関士でなくて機関員で採用ですか。珍しいなと思ひまして。

【船員労政課長】

これはそのとおりに、データどおりの職種だと思います。まだ免許をお持ちでない方。

【清水委員】

雇ってくれるんだって、エンジンはもうほとんど、機関員なんて船に乗っていない状態が内航だとほとんどですから、非常に珍しいなと思ひまして。

【部会長】

純粹に情報提供ということですね。何かわかればということですね。よろしくお願ひします。

他にいかがでしょうか。今日は委員の数が公益委員以外は1人、1人、それぞれ1つくらいは質問してもらわないと。情報提供も含めて。

やっぱり財政支出が大きくて商船関係のほうは求職が上向いているけれども、原油のほうは復興がうまくいかなくてということではぼんでいると、こういう状況ですかね。こんな把握でいいでしょうか、湯村委員。では、野田委員。

【野田委員】

資料6、有効求人倍率（東北管内）というのは全国ということでしょうけれども、これを見ると全国の有効求人倍率が東北管内のほうの倍になっているようですね、ただ単に。これもう全て漁船・商船含めてですか。

【船員労政課長】

これはそうです。合計の数字です。

【野田委員】

倍の求人倍率はちょっと珍しいような気がします。漁船と商船で合わせて、東北管内と全国であれば倍も違うんだなということです。

【部会長】

いかがですか。何かありますか。

【船員労政課長】

今の関係ですけれども、資料1の5ページのところで下段に有効求人倍率の数字を入れていて見てのとおり、東北管内では、有効求人数が商船15、漁船が93、合計で108、有効求人数が商船128、漁船が55、合計183です。これで求職数分の求人数ということで、全国の場合には、最初にありましたように、有効求人数が商船1,627で漁船が263で合計が1,890、有効求職が商船1,174名漁船が191で1,325、この計算で1.38で、見ると全国のほうは商船のほうが相当数多い。

資料3の1枚目のデータで、7月分、上段が商船、それから漁船、下が小計ですが、商船の求人倍率だけ見ると0.12倍で、漁船だけを見ると1.69倍、合計ですと0.59倍で漁船としては求人倍率は高いけれども、商船との合計では数字上0.59と低い倍率ということです。

【部会長】

質問に対しては的確な答えになりましたか。

やはり東北地方は商船の船員の全国に対する供給地になっていて、東北のほうの商船の求人倍率が余り多くないので結局外に出て行ってしまうということがこのような格好で数字に出ているということと、かといって、こうやって震災の影響で漁業のほうの求職が非常に条件がいくということが過剰作用でこんな数字が出ているというふうに見ていたのですが。以前からずっとこういう状況が見られたわけですが、そういう解釈でよろしいのですか。

【清水委員】

これを見たら、漁船関係は今東北管内では人手不足ですね。

【海事振興部長】

漁船関係は人手不足ですけれども。

【清水委員】

基本的に商船はいい、これはまあ東北エリアでいいからという。

【湯村委員】

初歩的で申しわけないですけれども、東北管内の求人、例えばここに出てくる求人数というのは、管内の事業者からの求人ということでいいんですね。

【船員労政課長】

そうです。管内だけで、基本的に管轄の中だけです。管轄内の事業者さんということになります。

【湯村委員】

その求人票は全国から来るわけですね。例えば、先ほどの報告にもありましたけど、成立している所は、中国とか、広島、愛媛、徳島とかも事業、就職先が記載されていますけども、こういう所からも求人票が東北のほうに上がって来ているということですね。

【船員労政課長】

はい。今、キオスクという機械で来て、全国分のデータがどこでも見られるんです。いわゆる

仙台で受け付けしたものは仙台しか見られないかというのと、その機械を操作するとその仙台の情報というのはもう日本全国どこでも見られます。

【湯村委員】

結構商船については、そういったシステムがあるのであれば、これだけの全国の数字を見ますと、求人倍率が1.5倍ぐらいでしょう。もっと決まってもいいような気がしますけれどもなかなか成立がない。

【船員労政課長】

そうですね。そこは本人の希望と会社の折り合いがうまくいくかどうかということだと思いますけれども。

【部会長】

求人は、東北の管内に直接求人が来たもののみ、また求職もここへ直接来たものだけですね。ダブルブッキングもあるのですか。

【船員労政課長】

件数としてですか。

【部会長】

この統計のとり方の問題だと思いましたが、全国的に出身で見ていると、こんなにならないだろうということと、ダブルブッキングがなかったらこんなことにならないだろうというご質問かと思ったのですが。東北管内で求職をしていた人が、結果的には他の所で就職しちゃって、こっちではうまくマッチングしなかったという話ですね。管内に求人が来たものに関してここに載っているわけですね。だから、他の管区でもってエントリーした人たちはそっちに行っちゃうということですか。その仕組みがわからないということです。この数字は一体何みたいな。

【清水委員】

要するに求職者が運輸局へ来て登録すればそれでみんな自動的に載る。その受け付けられた所で管内という形で、各管内となるわけですね。求人するほうも、その運輸局なりに出して、別にダブルブッキングということではなくて。しかも、今はインターネットで全部見られるようになっていきますから、別の管内で求職した人がこっちの管区の会社に就職というのもざらにあります。

【部会長】

だったら求職者は、何でこんなに商船の場合はいっぱいあって就職できないでいるのかというのが問題ですよ。そうではないのですか、湯村委員の質問は。

【船員労政課長】

そこが本人の希望と会社のほうの情報がうまく合わないということになると思います。

成立件数は、運輸局として紹介して成立した件数なので、自分で探して就職した人もいますけれども、その件数というのはこの件数には入ってこないです。

【部会長】

出てこないんだ。自分で就職しているのですか、残りの人たちは、商船。

【船員労政課長】

そうです。自分で探して就職を決めた場合にはこの件数に出てこない。

【箭内委員】

そういった諸々の事情というのは、こういった資料には提示できないのですか。というのも、以前からそうですけれども、これ資料2と資料3に関しては、東北管内の数字が載っていますが

資料4と5に関しては全国の数字ですよね。資料2と資料3の表にあらわしたものが資料4と5にも添付はされないのでしょうか。先ほどの質問に関しても、突き合わせて見比べることができると思いますし。あとは今質問があったように、例えばこのデータ以外の情報なども資料で出していただくと、我々としては今話を聞いてそうなのかなとは思いますが、やっぱり目で見て追って確認しないとなかなか細かいところはわかりにくい。例えば今、先生がおっしゃったようにインターネットで情報があるということをおっしゃったんですけれども、我々はそういう情報を全く持っておりませんので、そういうのは出していただけるものなのか。

【清水委員】

適当に船員の求職とかそういうものを探すときには自然に行き着きますので、そこで自分の年齢だとか、海技免状とか、希望職種、あるいは希望収入どれぐらいとかというのをやっていけばそれでもう出てきます。

【箭内委員】

というものは、我々のほうでやらなければいけない。

【清水委員】

だから、求職する人がそれでやれば、もう一応どこでもそれを出している失業保険を扱う運輸局に、問い合わせればというふうにはなります。

【箭内委員】

公のものとして調べることができるのですか。

【清水委員】

誰でもできると思いますが。私も試してやったこと何回かありますけれど。

【部会長】

全体は見られないんじゃないですか。

【清水委員】

全体の数はわかりません。ただ、自分の条件に当てはまるようなデータを入れたら、該当するのが何件ありますみたいな形では出てきます。

【箭内委員】

求人サイトと同じような。

【清水委員】

求人サイトであるんです。資料の1の6ページですか。これで全国で見たって、商船は合計で1,627人の求人がいながら、求職者も1,174人いるのに、成立が107人と1割以下ですね。だから、この辺が本当の希望職種とか勤務条件とかが合わないから1割も成立しないというところだと思って見えています。

【部会長】

なるほど。私はさっき言ったような枠組みですずっと10年以上見てきたものですから、全国的なネットワーキングが出来ていないという頭は入っていたんです。清水委員が言ってくださったことで、ああそうかと思ひまして、これまで全くいい加減に数字を見てきたと思ったんですけれど。野田委員が言ってくださったので一挙に噴出してしまった感がありますが、これは一体何だろうなということで考え直さなきゃいけないかもしれないと今回思いました。

これは陸上も同じようなものですか。求人・求職情報を全体として見るときに、ネーションワイドな、全国的なネットワークとして出ているのですか。

【船員労政課長】

ハローワークさんのシステムはちょっと把握していないですけども、基本的には同じかと。

【部会長】

管内だけで処理しているのですか、それとも。

【清水委員】

陸のほうは、民間会社がやっている同じような組織、制度がありますけれども。ハローワークのはハローワークへ行けば見られるでしょうけれども、普通の人は見ることでできないですから。船員のほうは、たしか「船員求人ネット」とかというような名前です。

【部会長】

箭内委員が言われたのは、全体というのは、誰でも見られるのかという話で。ここに出てくるような数字を簡単にいつでも。

【船員労政課長】

それは無いです。

うちのシステム、キオスクシステムじゃなくて船員職業業務システムの中での集計は。

【部会長】

管内というのはどういう意味ですか。

【船員労政課長】

東北管内、東北6県。

【部会長】

どういうことを意味しているのですか。求人・求職というのは。

【海事振興部次長】

それは、出先の支局・事務所の窓口があるところの集計をしている。

【部会長】

ですよね。だから、清水委員が言われたのとちょっと違うのかなと思ったのですが。

【清水委員】

私が言っているのは、あくまでも条件で絞り込むみたいな形ですから、統計データは出ないですよ。

【海事振興部次長】

キオスクはあくまでも、条件を入力して検索したデータを出すだけの機械なので、本人がその中からこれと思った所へ連絡をとって、決まったり決まらなかったりするパターンで、集計とはまた別です。

【部会長】

そこはそうだと思うのですが。全体として見たときに出てくる管内の数字というのは、管内でそれぞれの窓口で、支所で求人・求職というものをエントリーした人たちが全く他の地域の会社とか、他の地域の人とか、そういったものを取得した場合には、これは全部出てくるということなのですか。出てきませんよね。この管内の支所に求人・求職でエントリーした人たち、会社、この成立条件だけがここで有効求人倍率の数字として出てくるわけですよね。それも考えていいのですか。清水委員が言われたことは、いやそうことじゃなくて全国的にもチャラだとかいう話だと思うんですけども。

【清水委員】

統計データ的に言えば、要は船員の求職の所へ行くのは大体が失業している方なので、失業保

険を受け取りに行きながら仕事も探すことをやりますから。就職したら当然失業保険給付が切れます、そこで一応管内ではわかるわけですね。各運輸局では全部、就職したら、私も一遍失業保険を貰ったことがあるのですが、就職、今のこの仕事に変わるときにやったら「採用証明を見せろ」とか言われて持って行ったことがありますけれども、そういう形で大体は運輸局経由になっているのです。失業保険も貰わないで、ただ求職だけ出して勝手に決まった場合は、こういう統計データには出てこないのが通常だと思いますけど、それは少ないと思います。

【部会長】

そのところは、求人倍率に直接反映されないわけですね。

【村上委員】

基本的に、例えばですよ、資料1の3ページで管内の求人のほうを見ますと、管内の新規求人は2人である商船。ところが、次のページの全国の当月の求人は736人である。全国というのは、いろんな各企業さんが求人を出した統計だから、これはわかるんです。700人、日本中でこのぐらい求人があると、商船に関して、そのうち東北が管内2名というのはどういうことなのでしょう。これは、さっきの話のように、別に例えば東京の企業が、管外の企業が東北にだって求人出すと思うんです。731人の求人を出している全国の企業が東北に2人しか求人しないということはありませんよね、新規ね。例えばこの数字で言えば。そうすると、管内のこの2名というのは地元の企業の求人なんじゃありませんか。そうですね。

【船員労政課長】

件数はそうです。

【村上委員】

求人は、したがって、先ほどの成立事例でほとんどの商船は管外に行っていますよね、成立事例だと。東北ではなくて広島県だの、愛媛県だの、徳島県に行っているわけですね。そうするとそれは他の、さっきのネットで他にもあるとか、この2名以外に管外からの求人もあるというのがわかってそっちに行くわけでしょう。

【清水委員】

というか、商船乗りだったら、まず普通の方は、東北にはろくに商船用の就職先が無いよと、もう関東から中国・四国方面。

【村上委員】

それはわかる。だからあっちに行くのはわかるんですよ。違って、ここの数字の意味ですよ、求人の。これは東北の企業の求人なんじゃないですかね。そうすると、求職のほうは、新規求職は52名、これは管内で、これは商船に希望している求職者だと。388名の全国のものは、全国の各局に求職している人の合計なんですか。

【船員労政課長】

はい。

【部会長】

管内というのは、今の村上委員の話で、ああそうかと思ったのですが、管内というのは居住者居住企業ですか、管内に居住している。

【船員労政課長】

いわゆる管轄区域内、例えば宮城県であれば管轄が本局と石巻、あと気仙沼とあるんですけれども、その管轄区域内においては、その局に受け付けをしなきゃいけないとなっているので先ほど村上さんが言ったように、そこに居住している人間あるいは会社が求人票あるいは求職票

を出すときは、その管轄の局に出して受け付けをする。その件数が求人件数、求職件数です。

【村上委員】

求職は、別に住所地が管内でなくても、本局なり八戸支局に求職を出せば、その数が求職なんでしょう。その合計でしょう、別に居住地と関係ない。

【清水委員】

そこが僕はわからなくて、一応住所で管轄があって、あなたの場合はどこの局の管轄ですからそっちへ行けと言われるんですよ。私も長野県だったので、横浜へ出したら「おまえの管轄は新潟だから新潟へ行け」と言われたのがあった。「今さら新潟へ行って仕事があるか」と言ったら東京支局の扱いにしてくれたんですけども。原則的には住所で自動的にどこのとか、まあ、たまに私みたいにごねるのは例外なことで。

【村上委員】

先ほどのように、例えば資料1の3ページで当月求人は商船について2名しかない。これが地元企業による、管轄内の企業による求人だとすると、さっき清水先生のお話のように、今はネットで全国的に求職というか職探しをするのだから、これで東北管内の有効求人倍率なんて出しても余り意味が無いんじゃない。今さら思ったんですけども。

【海事振興部長】

成立していないだけであって。どれだけの人が職を求めて、どれだけの人が人を求めているかという数字の話だとは思いますが。

【部会長】

成立は関係ないのかな。

【村上委員】

倍率で考えたら、東北の有効求人倍率悪いなとずっと思っていて、なので全国とおっしゃるので、よく考えて見るとあれとあって。

【部会長】

私もね、前の時期にこれがよくわからなかったものですから一度お聞きしたことがあったけれども、何かモヤモヤとしたまま終わったんですよ。よく考えていなかったのですが、例が出てきて、今の清水先生の話があって、ああそうかと思ってようやくわかった思いなのですが、それでいいんですか。この地域内でのマッチングというのは全く意味がなくて、求人数と求職数だけがぽって出てきて、全国的にこれがマッチングというのが行われて、じゃこっちは需要と供給の数字だけが意味があるという形なのですね。だから、一体私はずっとこれまで何を聞いてきたのだろうか。景気が悪いですね、東北大変ですね、なんて言ったのだけれども、その問題じゃないですね。

【海事振興部長】

本来的に言うと、東北同士で求人・求職がマッチングするのが一番いいと思います。

【部会長】

そうですね。漁船なんかは。

【村上委員】

漁船は非常に多い、成立で見ると。

【部会長】

商船は全くその外側ですね。

【村上委員】

まあ、商船だって本当は望ましいでしょうけれども、地元で求人が無いからなんでしょうけれどもね。

【海事振興部長】

地元で求人が無いので外に行っちゃおうということでしょうね。

【部会長】

商船の宿命かもしれませんがね。

【清水委員】

会社の数が圧倒的に違いますから。東北6県の船会社の数とどこか中国・四国の1県の数と、それだけ違いますから。前に、波方海上技術へ勤務していたんですけども、その波方町だけで海運会社200社です。東北全部入れて20社。

【湯村委員】

大体、内航の場合は船員が100名です。

【清水委員】

ですから、全くもう規模が違うので。

【湯村委員】

船主は、内航船主は数社ですね。

【部会長】

やっぱり船員部会の議論の対象というのは漁船のほうに向いちゃうんですね。紛争は余り生じないと。私たちの役回りもよくわかってきました。ちょっと以前に想定していたのと随分違うなということもわかりました。縮小の意味もよくわかってきました。こういうことでよろしいですか。もうちょっときちんとしたレクチャーが欲しければ事務局のほうにお願いして、次回までに勉強して下さって私たちにそこら辺を懇切丁寧に教えてくださいというふうに、私が今ここでお願いしますが、それは必要ないですか。

【野田委員】

まあ、私らは大体海にいてわかっているの。

【清水委員】

ただ、強いて言えば、最近よく船会社の方が学校へ見えられるのですが、特にエンジニアが欲しいと言うんですね。それで見た割には成立が少ないなと思って、本当に今機関士不足が全国的になっているんですけども。

【部会長】

という文脈で先ほどのご指摘も出たということですね。最初の火つけ役である野田委員から。あと別の繰り返しになって。

【野田委員】

そのような商船と漁船分けるのであれば、先ほどあったとおり、東北管内の事業者数、例えば何社ありますよ、この何社の中から幾らの求人が出ていますかという情報も欲しいですよ、数だけは。それを全部、全国も管内も求人来たから、もう北海道管内とか全部入れ込んでから求人の数だけどんどんどんどん増えちゃって、本当の東北管内の数字が何となく見えないような気がするんですよ、実態の東北管内の数字。

【部会長】

なるほど。事務局はいかがでしょうか。今非常にシビアな要求があったんですけども。

【海事振興部長】

そこ、ちょっと調べてみます、どうなのか。

【部会長】

これまでの求人・求職のすくい方がちょっと違うんじゃないかという、こういうご指摘かと思いましたが、野田委員から、これを変えてみて、もしすくい方でもうちょっと違う数字が出てくるのであれば、それを出してもらいたいな。ちょっと私も以前の考え方とちょっと変わっちゃいまして。

【海事振興部次長】

次回までちょっと整理して。

【部会長】

もしできたらお願いします。そのほうが最賃の議論をするときも変なところに話が行かなくてよいかもかもしれません。

じゃ、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、ご承認いただいたということで話を次に進めたいと思います。

(2) その他

【部会長】

次は、議題のその2の事項ですけれども、事務局のほうから資料8の最賃部会専門部会に関する資料のご説明をいただきたいと思います。

【海事振興部次長】

すみません、私から説明させていただきます。

前回の部会において、最賃の諮問があって、その他の手続についてご所望いただいたということでもって、資料8-1の部会の臨時委員の任命についてということで、専門部会につきましては、こちらとすると公益の方2名、それから使用者の方2名、労働者の方2名ということで、現在いらっしゃる方の他に不足する部分につきまして推薦依頼をしまして、推薦があった方々につきまして、現在本省のほうに上申をしています。今月末、来週ぐらいには大臣からの任命がされる予定になっておりますけれども、その方々が任命されるということで、その方々が地交審の臨時委員となった場合に部会のほうに指名していただく。そこから、再度最賃部会に部会長から指名していただくというこの事務的な流れになるのですが、あらかじめ前回は委員さんにもお話をしまして、事務局としましてはこういう形でしたいということで部会長の了解を得ました。沖底部会の専門委員では、公益の方は、清水先生、長谷部部会長、それから労働者につきましては高橋委員と野田委員、それから使用者につきましては、秋田の底びき網漁協の部会長の齊藤様、それから、宮城県底びき網の鈴木様。同じく大中まき網につきましては、公益が村上委員と箭内委員、それから労働者を代表するほうでは正路委員と津田委員、それから使用者を代表する委員として宮城県東部かつおまぐろ漁業協同組合理事の尾形様となっておりますけれども、組合がかつおまぐろであります、大中まき網の組合のほうを管理しておるということで推薦いただきましたので、その方にしております。それから、福島県まき網漁業の柳内様ということで、この6名の方、トータル12名の方を予定しております。上申しております5名の方につきましては、来週でないとも任命にならないので、予定ということでこの表をつけさせていただいております。

資料8-2につきましては、日程調整ですが、任命が終わってから日程調整しますと予定期限内に部会が開けないという事情がございまして。あらかじめもう任命されるということが確定しておりますので、日程の調整、皆様に出ささせていただいて、今その回答待ちをしている。その中で日程を決めたい、決まりましたら再度正式な通知をしたいということで、あらかじめ日程調整の文書を出しているということでございます。

8-3の資料につきましては、前回の部会で承認というかご報告いたしまして、諮問した場合には意見聴取の公示をなささいということで提案していましたが、9月12日付けの官報に公示されました文面の写しでございます。なお、官報だけでは不足部分もありますので、本局の掲示板、それから各支局事務所の海事系のところにつきましては、この写しを掲示板に掲示して関係者に知らしめるという手続をしています。

以上が資料8の説明になります。

【部会長】

この説明に関してご質問、ご意見等ありましたら、お願いいたします。

日程調整ですが、私は昨日夜に帰ってきましたお昼にファクスで送りましたが、できれば早く確定していただければありがたい。私たちの仕事は10月から新しい学期が始まり、これからいろんなものが続々入ってくるんです。この時は空いていますけども、すぐに埋まっちゃう可能性があるんで、優先順位つけるために早く確定したいということです。

【海事振興部次長】

まだ、回答の無い方が正路委員だけで。正路委員から来た段階で、全体の中で最大数のところで日程を決定して、早々にお知らせをしたいと思えます。

【部会長】

他に何かありますか。

野田委員はいかがですか。

【野田委員】

ちなみに、大中まき網、沖底、さっきの全国の諮問状況はどういうふうになっていますか。

【海事振興部次長】

全国諮問状況、前回報告しましたけれども、北海道、東北、北信、関東、それから四国が諮問しており、それ以外は諮問していません。諮問の中身につきましては、今言ったところが漁業の2種ないしは1種と、それからあと四国が旅客もあわせて諮問されているという状況になります。本省につきましては4業種、大型いかとまぐろと内航と旅客と全て諮問されています。

【部会長】

前回、私たちに配付されたものと同じ資料は野田委員にも渡していいわけですよ。問題は無いですよ。というか、あれに書いてありましたよね。

【海事振興部次長】

そうです。

【部会長】

すみません、そこら辺の情報のやりとりをよろしくお願いいたします。

他にございませんか。これ大事なことで、一応承認事項として皆さんに承認いただいたということで話を先に進めたいと思えます。

情報提供、情報交換ですけども、労働者委員のほうからいかがでしょうか。

【野田委員】

気仙沼地区ですけれども、今やっと1週間前からさんまの水揚げが始まりまして、今日も4隻ほど入っていましたが、2隻しか水揚げができない状況です。ということは、加工施設ですね、冷蔵庫関係、まだ、稼働・復旧できていないので、生出荷だけだそうです。だから、今のさんまの処理、トン数としては1日200トンぐらいが精一杯だそうです。その他だんだん佳境にもなってきますけれども、近海かつおも結構船入っていて、そちらも生出荷ですけども、そういう状況で気仙沼も大分賑わってはきていました。この時期、何となく本当の気仙沼だなという感じがしています。今の気仙沼の浜の状況です。

【部会長】

気仙沼に導入されたという放射能の全量調査、全部調査する機械ですか、あれはどうなんですか。テレビでちょっと見たんですけれども、一匹一匹ガンガンガンと動いて行って線量を調査するという、あれ気仙沼ではありませんでしたか。

【野田委員】

ちょっと聞きませんが、福島じゃないですか。

【部会長】

そうでした。宮城県内で何か報道していたように思ったものですから。

【野田委員】

石巻ですかね。

【部会長】

テレビでちょっと見た。そうですか、石巻ですか。

【海事振興部次長】

すみません、今日の新聞記事10ページのところに、この機械が入ったのが出ています。

【部会長】

石巻ですか。

【海事振興部次長】

前は魚を潰したりして測っていたのがそのまま通す、このことでないかと思えますけれども。

【部会長】

どれですか。

【村上委員】

10ページですか。下から2段目、検査体制を強化してきた。

【部会長】

やっぱり気仙沼にも入っている。簡易ですね。石巻の場合には精密検査機械。米でやっているような全量検査ができるシステムだというふうにテレビで聞いたような気がしたものですから、そういうのがあると風評被害というのは無くなるわけですね。

【清水委員】

さんまの汚染されたのは、北海道のほうまで汚染しているよなっとなっちゃうから。

【海事振興部長】

そうですね。

【部会長】

これはちょっと試金石だな。そこら辺も状況がわかったらまた教えてください。それでよろしいでしょうか。使用者側はいかがですか。湯村委員。

【湯村委員】

部会の前に雑談でお話ししましたが、9月の初めに全国の「内航船員確保対策連絡協議会」の意見並びに情報交換会がありました。今までは船員確保対策につきましては各団体がそれぞれの方法でいろいろな対策を行ってきたんですけども、それをまとめていこうという機運がありました。第1回として情報交換会ということで私も出席したんです。

確保対策については各地域で随分と温度差があるなど、まず始めに感じました。特に、東北はご承知のとおり船社数が少ないということもあり、今のところは船員不足というかまだまだ余裕がありますので、東北はどっちかという意識はまだ低いんです。

西のほうは切迫した状態で、いろんな手当てをやっているようです。それで、紹介された中で非常に有効かなと思ったのは、四国なんですけれども、四国の運輸局が各水産高校、各海技学校の卒業生の就職希望リスト、就職希望を調べて、それをリストにして船舶所有者団体のほうに情報提供をする。使用者側は、それを各船社に連絡して、各船社が個別に各学校にアプローチをするという方法をとろうとしているんです。来年卒業生を対象に。それが、その席上、こういったことを全国レベルまでまとめていけば、先ほど議論になったような東北は求人が少なくて求職が多いけれどもなかなか成立が少ないというのが、もっと、まあインターネットもありますけれども、それがもう全国レベルに求職者は求人先を探せるということで、そういったものを東北のほうではやっていただけないものかなと思って。

法律も改正されて、水産高校のほうも内航船に乗りやすい、高校卒業生も内航船に乗りやすいような状況にもなっているので、管轄が違うのは承知していますけれども、水産高校を含めて東北に所在する各学校もちょっと情報を提供していただければ。そして、東北の内航海運から全国のほうに流して全国の内航業者が閲覧できるというようなこと。

【部会長】

今の湯村委員のご指摘はあれですか。行政的に、説明会レベルではなくて、もっと介入して情報収集して学校と業界との連携とか。

【湯村委員】

東北では無理があるのでしょうか。もしやっていただければ。東北は船員の供給地ですから。

【部長】

こういうのは四国でやるんですから、できないということは無いんだと思います。どういうやり方をするかというのは情報収集しまして考えてみたいと思います。

【湯村委員】

実際、来年のというので取りまとめてあって、例えば本科生は甲板員として3名希望していますとか、あとは専攻科生は甲板12名、機関3名、15人、うち女子1名といった、その学校単位でまとめられ、事業者がこの学校に直接行くわけですよね。

【清水委員】

私どもの場合は、現役の人間には直接就職指導しますし、基本的には海技教育機構というほうへ全部求人票を出してもらったものを廊下へ張り出して、学生に選ばせて行くという形なんです。要はリタイヤ組なんですけど、中途退職しちゃった、それも学校へ来れば、海技教育機構としては「辞めちゃったけれども、まだ船乗りやりたいよ」というのがあれば登録する窓口がありました。そういう人間は登録している形で、船社さんでもそれは、個人名は載っていないですけども、何歳でどういう海技免状を持っているというのは見られるようになっています。

【部会長】

それは学校経由でやっているのですか。

【清水委員】

大体、学校へ来て「教官、何かこういう仕事ないの」と来るやつには「こういうのがあるから」と言って登録させるといのはあります。

【部会長】

それはよく知られていることなんですか。船員の方々はよく知っていることなんですか。

【清水委員】

海技教育機構の求人ホームページを見ていただければ、求人を船社さんへなんていうところがありますので、そういうほうから追っかけていけばたどり着けるようになっているんです。

【部会長】

行政のほう、そういうのがあるよということをちょっと知らせればすぐ済む話でというふうになりますか。

【清水委員】

ただ、水産高校さんのほうは「水高ネット」というのをまた別に独自で開いているはずなのでそちらのほうへ。一応、水産高校は「全国水産海洋系校長会」という組織もありますから、そういう所へ話を持っていけば割合にまとまるんじゃないかなとは思いますが。

【部会長】

ということも含めて、事務局のほうでひとつ考えていただく機会を持っていただければと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか、湯村委員。どうぞご検討よろしくお願いします。

他にございますか。今の話、もっとやったほうがいいですか。

【湯村委員】

いや、もう結構です。

【部会長】

他にはございますでしょうか。

無ければ、今日はこのくらいで閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

じゃ、閉じたいと思います。どうも。

◎閉 会